

てんかん動画①
はこちら

1. てんかんという病気とは？

てんかんとは一言で言うと「脳の病気」で、てんかん発作を起こします。例えば「狭心症は心臓の発作」、「喘息は肺の発作」といった、特定の臓器に「発作」を起こす病気があります。てんかんもその一つで、てんかんは脳という臓器が「発作」を起こす病気です。

脳の発作は、小さく部分的な脳の発作のこともあれば、広く脳全体に及ぶ発作の場合もあり、てんかん発作の症状や強さの程度には個人差があります。

もちろん「発作」ですので、症状が出るのは短時間(通常数分以内)であり、治まると症状のない元の状態に戻ります。てんかんでは、その発作が繰り返し生じます。

メモ.1

脳はコンピューター回路

脳は私たちの思考や行動をつかさどる装置で、例えるならコンピューターのようなものが頭の中に組み込まれています。本当のコンピューターと同じく、内部には電気の回路があり、そして本当に電気が流れています。ちなみに、

てんかんの診断に用いられる脳波という検査がありますが、これは脳内を流れる電気の様子を波形に表す検査です。

てんかんという病気はこのコンピューターの電気の回路に異常があり、そこに激しい電気が流れるとき(脳の過剰興奮が起きた際)に「てんかん発作」を起こします。この回路の異常を「てんかん焦点」と呼び、その部位や範囲によって発作の症状が異なります。

てんかん動画②
はこちら